

教育目標	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指すとともに、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性をそなえた生徒の育成を目指す。科学技術の進展や産業社会の発展に、主体的・創造的に貢献できるスペシャリストの育成を目指す。		総合評価
運営方針	全職員が主体的に学校経営に参画し、長い歴史に培われた伝統を維持するとともに、創意と特性を生かしてさらに魅力ある校風を築きあげる。		
30年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	A
学習活動ではスペシャリストとして必要な態度と実践的な技能を養う具体的な目標はほぼ達成された。技術検定等の資格取得や校外での競技会等への積極的な参加、さらに作品製作や研究発表を行い高い評価も得られた。農業教育では食を支える技術や花と緑に囲まれた生活環境づくりなどの学習内容を生かした事業活動、家庭科教育ではフード、ファッション、保育や福祉などの学習内容を生かした事業活動を行った。生徒指導では教育相談や遅刻・欠席の減少、また、制服の着こなしなどの取組みを強化した。進路指導では早期の進路対策が実を結んだ。地域連携活動では、社会人講師による専門的な授業の取組み等、前年と比較し内容の充実がみられた。さらに、全体としての学校評価を向上をさせるために、各評価項目の具体的な数値目標の達成をめざし、事業推進を図りたい。	基礎・基本の定着	設置学科の特性を發揮するとともに、社会の要請に応えるため、教材を見極め、指導の重点化を図りながら、基礎的、基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるように努める。また、分かる授業を展開し、生徒自らの学習活動を重視した授業を目指し、生徒の能力・適性の伸長を図る指導法を工夫する。	
	基本的生活習慣の確立	全ての教育活動を通じて教職員は生徒に積極的に語りかけ、教師と生徒、生徒と生徒の心が通い合うように努める。また、自治的・自発的な生徒会活動を援助し、基本的生活習慣を確立し、厳しく自己を見つめ、目的意識をもって力強く生きようとする意欲と態度を育てる。	
	人権教育の推進	人権尊重の精神に基づき正しい生き方を自覚させる。そのため、日常のすべての教育活動を点検し、生徒の願いを正しく受け止め、差別を見抜き、差別をなくす教育の推進を図るとともに、それに立ち向かう力量を育てる。	
	一人一人の進路実現	個々の生徒の願いや能力・適性等を正しくとらえ、専門学科の特性を生かした適切な進路選択ができるよう、個々に応じた進路指導の徹底を図る。	
	生徒会・部活動の活性化	生徒会・部活動への積極的な参加を促し、興味や特技を生かしながら学年を越えての人間関係を大切にさせる。また、自主的・自発的な活動を通して、はつらつとした健やかな生徒の育成に努める。	
	農業クラブ・家庭クラブの充実	様々な課題を自主的・主体的に解決する能力の育成を目指すとともに、各行事の目的と内容を明確にし、集団生活を通じて社会の一員としての自覚を高めさせるとともに成就感・充実感を味わい自信と誇りを体得させるように努める。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	各教科・科目において基礎的・基本的事項、専門的知識・技術の定着を図る。	基礎的・基本的事項とその達成目標を明確にするとともに、学習方法についても単元・教材ごとに確認する。	A	基礎的・基本的事項と達成目標を年度当初に確認し、各定期考査時にも再確認を行った。ほとんどの生徒が具体的な目標を把握し、学習方法について理解できていた。 長期休業中を中心に補習を実施した。また、個々に応じた教科の個別指導も一部行っていた。多様な生徒に対して、学習意欲を高め、学力を向上させるための方法を検討していく必要がある。 1・2年生のうちから上位の級を受検したり、3年生の最後までチャレンジしたりと、資格取得への意識の高い生徒も見られ、準2級・2級合格者も見られた。一方、なかなか受検者が集まらないものもあった。一つの資格に留まらず、より多くの資格取得に興味・関心を持たせるなど、取得者数増への指導方を考えていきたい。 本年度も引き続き、各種行事・競技会、農業クラブ・家庭クラブの全国大会や技能五輪において素晴らしい成果をあげた。ホームページによる紹介や、報道機関による取材の積極的な受け入れも行っている。 模擬株式会社化された直売所の活動を中心に、文化祭、利得デー磯城野、産業教育フェア、各種フェスタなどにおいて、一般の方々に対して取組みを発表した。また校内において、課題研究発表会を学科ごとに行った。 シラバスを作成することにより、科目の到達目標を具体的に示した。また配布方法について検討する余地がある。また、利用実態を把握する必要がある。考査においては、観点別の問題作成に留意した。 年間2回実施し、期間中全ての授業を公開とした。公開授業等も開催され、学習指導上の課題や成果等の情報交換が効果的に行われた。各教科・科目で具体的に観点別評価の実施を進めている。 生徒アンケートの結果、提出物はきちんとこなしているという回答は80%、積極的に授業に参加しているという回答は64%、定期考査の準備をしっかりしているという回答が49%といずれも上昇した。いただいたそうという回答を含めると、提出物は96%・授業参加は93%、考査準備は80%の割合で取組んでいる。 定期的に開催することができた。教材の点検や指導事項の確認、観点別評価の充実に向けての検討と新教育課程編成への意見交換などが実施できた。	<ul style="list-style-type: none"> 各学科コース・各教科において、本年度の成果と課題を踏まえて、達成目標と学習指導について年度初めに十分検討する。また、観点別評価の実施に向けて評価基準を完成し、新教育課程を編成していく。 各学科コース・各教科において、基礎学力の底上げに向けた指導方法の工夫、協働体制の確立を引き続き図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・識見豊かな校長先生による広範なご指導のもと、その意を体した教頭先生が要となつて諸先生方の英知と情熱を結集され、多大な成果をあげておられることに、地元民としても大いに誇りにしています。年々進化し続ける様子は通学生の姿から強く感じ取れます。 ・基礎・基本を重視した魅力ある授業の実施に向けて、実習や学習指導の展開方法に工夫を凝らしたより具体的な学習指導の取組みが感じられました。 ・先生方の指導力の向上について、「授業評価アンケート」「外部アンケート」の実施結果をうけて、PDCAサイクルの機能が活性化されています。 ・「スペシャリストとしての能力と専門的知識・技術の育成」に関して、特色ある教育活動や資格取得の項目で保護者から非常に高い評価を頂いています。
		到達度が不十分な生徒に対し、達成目標と取り組みの方策を確認し、学力の充実、技術の深化を図るため、放課後・休業中を利用して積極的に補習を行う。	B			
	技術検定等の資格を積極的に取得する態度を養い成果をあげる。受検者数の10%増と合格率の向上、2級以上の取得者増をめざす。	B				
	校外での実習や競技会・イベント等に積極的に参加する意欲をはぐき、顕著な成果をあげる。	A				
	作成した作品や研究内容の成果等を積極的に発表する能力を養う。	A				
	新学習指導要領にもとづく教育課程を検討し、その実施に向けて準備を進める。指導方法・評価方法・到達目標を明確にし、学年・学期・単元ごとに生徒に示す。	B				
学習指導力の向上を図る。	授業研究月間を年間2回設定し、全ての授業を公開して、できるだけ多くの授業を参観し、学習指導の研究を行う。また、観点別評価の実施についての研究を進める。	B				
	前年度の授業評価及び学校生活に関するアンケート調査結果を踏まえ、学習指導改善につなげる。前年の数値を下回っていた項目で改善を図るとともに、継続的な課題である考査への取組について、「十分にできている」という回答が50%以上となることを目指す。	A				
	全体研修を実施する。各教科会議を各学期2回以上、また教科担当者会議を必要に応じて開催する。	B				

評価項目		具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導・教育相談	磯城野ブランドの確立を目指す。	全校体制での集会を毎月行い、服装・頭髪等の指導を徹底する。校歌斉唱・磯城野ブランド唱和の機会を増やし愛校心を育てる。	A	B	服装・頭髪指導を毎月の集会でおこなった。黒染め等の改善しなければならない生徒に対して保護者の協力を得ながらおこなった。	今後も集会等で全体へ周知し、保護者の協力を得ながら職員全体で粘り強く取り組む。	・卒業式に参加させていただきました。先生方の指導の成果が表れており感動しました。 ・生徒の登校時の様子から、挨拶・身だしなみ等改善されていると地域の方々からの評価をうけています。しかし「歩きスマホ」が見受けられます。粘り強くご指導いただきたい。
		規則正しい生活習慣を身に付けさせ、遅刻・欠席を減少させる。	B		遅刻指導を実施しているが、今年度は遅刻カード・入室許可証の発行も含め増加傾向にあった。	遅刻に対して意識が低く、日頃から決まった時間に間に合わせる意識と態度を身につけさせる。	
	集団指導の徹底を図る。	集団指導の場を多く設け、情報を共有することで学校生活に興味・関心をもちさせる。	A	B	スマホの登下校時および校内での扱いについて、外部講師を招いてのマナー講習会(1年)や全校・学年集会等でルールの確認や指導をおこなった。	学校全体ですべての教職員が情報を密にし、生徒の規範意識が向上していくための取り組みをおこなう。	・遅刻の多い生徒に対して、放課後、遅刻指導を行い成果をあげていると聞きました。今後も常習者を中心に遅刻減少を目指していただきたい。 ・教育相談機能も充実していると聞いています。さらに強化され継続していただきたいと思います。
		集団生活において互いに協力し、思いやる態度を養う。	B		クラス担任が中心となり、学校行事等を通じてクラスの絆が深まるように指導した。	ホームルーム等を通じて仲間を思いやる気持ちや協力してやり遂げる力を育てる。	
	生徒会活動を充実させる。	各種委員会や部活動の活性化を図る。	A	A	各種委員会で活動目標を立て、実行していくようにした。生徒会で定期的に校外清掃を計画し、実施した。	生徒会、農業クラブ、家庭クラブ、各部活動が中心となり、今後も活発に活動をおこなう。	
校内の教育相談体制を充実させる。	担任を中心に据えた教育相談体制を充実させる。また、スクールカウンセラーを積極的に活用する。	A	A	昨年に比べ、ほぼ相談生徒・保護者が固定しており、緊急性のある事案が少なかった。	カウンセラーとの連携を密にし、今後の学校における教育相談体制を発展させる。		
進路指導・キャリア教育	進路の情報を充実することにより、進路意識を向上させる。	進路の手引きや進路資料を充実させ、HR・進路保護者会・進路説明会で配布・説明する。進路保護者会は学年が進むにつれ、生徒の希望進路別に実施する。	B	B	進路の手引きの充実を図ったが、HRでの活用が十分にできなかった。進路保護者会は3学年全てで実施でき、参加人数が増えた学年もあった。	大学入試制度改革等も踏まえ、進路の手引きの内容の改善と早期発行を目指す。進路指導室の整備をすすめ、資料の活用がしやすい環境を目指す。最新の情報が保護者・生徒に提供できるよう、ガイダンスの内容等、精査する。	・有名私立大学への合格が年々増加しています。就職は希望者数が多数であったにもかかわらず多くの内定者を得ています。進路指導部を中心とした先生方の継続的な取組みの成果です。 ・進路保護者会では3年生だけでなく1・2年生及びその保護者においても体系的な「キャリア教育」が推進されています。 ・各種進路説明会及びインターンシップ等で進路選択に必要な情報を提供することに保護者からも評価が得られています。 ・各学科・コースの特色をいかした進路先が決定できるように、いっそう取組みを推進してください。
		進路指導室の環境整備に努め、利便性の向上をはかり、大学、短大、専門学校、企業等の新しい情報を提供する。また、進路室前の掲示板を整理する。	B		進路指導室の環境整備に努めているが、手狭なため、さらなる利便性の向上を図る工夫が必要である。各学年への情報提供もその手法を工夫した。		
	自己の適性や学力の到達度を知り、進路選択の方途とする。	就職希望生徒に対し、1年生から基本的知識の定着を目指す。また3年生は放課後に学力定着を図るテストを行う。	B	B	計算・基礎数学の補充が必要である。進学希望者に対する教材の充実、活用環境の整備に努めたい。	専門高校での学びを生かした就職を目指し、関連分野の就職先の開拓に努める。また、さらに学びを深化させるため、関連分野への進学指導にも注力する。求人状況の変動、大学入試制度改革に細心の注意を払い、進路指導を進める。	
		模擬試験、適性検査とも各学年で1回以上全体実施し、その分析を行う。適性検査は将来の職業に結びつくものを選定する。	A		全学年で基礎学力模試・適性検査を全員受験で継続実施できた。事前・事後指導のあり方を工夫していく必要がある。		
職業観や人生観を知り、望ましい生き方を考えさせる。	各学年の各学期に進路に関するHRを行う。またインターンシップを2年生希望者対象に3回実施する。1年では職業理解ガイダンスを行う。	A	A	2年生でインターンシップを3回実施した。また1年生の職業理解ガイダンスも冬期に1回実施した。	インターンシップを希望する生徒が減っている。インターンシップの意義をしっかりと伝えていく必要がある。また、社会人講師による講義などを通して、さまざまな職種に触れる機会を設け、自らのキャリアを考える一助とする。		
	社会人講師を招いての講義・実習を学科単位で行う。	A		各学科で多くの社会人講師を招き、内容の充実した講義が行われた。			
人権教育	教職員自らの人権意識の向上を図り、人権教育の充実に努める。	県教委・高人数・県外教などが主催する各種研究会、公開HR研修会などに各教員が主体性をもって参加し、自己研鑽につとめる。	B	B	高人数の研究大会等に、各学年から先生方に参加いただき、研修を深めることができた。	時間的に余裕がないので、研修に参加することが難しい。	・人権教育推進の基本方針として「一人一人の将来を見ず、人権教育を通して生徒の生きる力を育てる」を掲げるとともに、年間行事計画や人権教育HR計画を学校経営計画に明記されています。 ・人権教育の講演会では、実際に経験を踏まえたわかり易い内容の講演会が企画されています。 ・さまざまな課題を抱える子どもたちの教育保障をめざす目的で、個人面談期間を充実させ実態の把握をしていただいています。
		夏期休業中に教職員向けの研修を実施し、実態をふまえた課題に対する共通理解を図る。	A		本校カウンセラーの森本先生によるワークショップを行った。研修に積極的に取り組めたと思います。	内容や持ち方について一層工夫する。	
	生徒に「豊かな出会い」の機会を設け、人権学習の深化を図る。	全校体制での人権講演会等を年1回実施する。また、学年別の講演会などについても検討する。	B	B	ちゃんへん氏の講演会は好評でした。話の内容も分かりやすく、心に残る内容でした。	今後も生徒の実態を考え、学習効果の高い全校集会を企画する。	
		人権教育LHRを、ロールプレイやグループ別討議、また体験学習や視聴覚教材を活用し充実させる。	B		昨年度の教材を使うことが多かった。	人権教育LHRの内容について、より工夫や新しい話題を取り入れる。	
	保護者への啓発活動を進める。	育友会広報誌に人権教育の頁を設けて保護者への啓発につなげる。	B	B	育友会広報誌「かけ橋」に年間2回、人権教育部から取組みの報告を載せることができた。	ホームページの更新について、今後も積極的に取り組む。	
校内の人権教育に関わる行事や、校外の人権教育研修会への保護者の参加を促進する。		B	育友会総会において、育友会人教部会の役員の方々や膝を交えて意見交換できた。		人権を考える全校集会について、今後も継続して案内し参加を促す。		

令和元年度 学校評価総括表

奈良県立磯城野高等学校③

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析) 及び改善方策
農業教育	専門学習を通じて実践力のある人材を育成する。	実験・実習を通して、基礎基本の定着をはかるとともに責任感と協調性、創造力を養成する。専門科目の授業時間の50%以上を実験実習とする。	A	A	専門科目の授業時間の50%以上を実験実習とすることができた。実践的な学習を通して、基礎・基本の確かな定着をはかった。	教育内容・教材の体系化・一般化・共有化を一層はかる。新教育課程を視野に入れた専門教育を実践する。外部機関とも積極的に連携し、より実践的な専門教育を目指す。	・各学科、コースともその特色を発揮し、子どもたちのこつこつと努力を重ねる姿、たくましい実践力がうかがえます。新教育課程の導入の取組を引き続きお願いします。 ・直売所「しきの彩」は、生徒たちの創意工夫により、たいへん好評です。 ・農業クラブ県大会では、プロジェクト発表と意見発表のそれぞれ2分野において最優秀を獲得し、近畿大会でも意見発表において優秀賞を獲得されています。全国大会では平板測量競技会が優秀賞に選出されました。さらに技能五輪全国大会(造園の部)では4大会連続の銀メダル、サイエンスチームなら科学研究実践発表会奨励賞等、過去にない快挙であったと聞きました。子どもたちの活躍を大いに評価します。 ・資格取得も多くの検定・資格にチャレンジされ、取得状況も毎年アップしているようです。引き続き頑張ってください。
		学習内容の精選と充実を図り、専門科目の学習体系を確立する。資格取得については全受験者の60%以上の合格率を目指す。	A				
	農場運営の合理化と施設・設備を充実する。	環境保全や持続可能な農業及び食の安全・安心の視点に立った農場づくりに努めるとともに、教材の充実を図る。	B	B	植物残渣を使用した堆肥製造、ほ場への堆肥の投入、農業使用の削減等に取り組むことができた。	学校農場として循環型農業を実践する。施設・設備の修繕・廃棄を少しずつ進める。整然とした学習環境の構築を進める。GAP・HACCPの研修の機会を増やし、環境改善の具体的指標を教員・生徒間で共有する。	
		施設・設備を有効活用するための環境改善をすすめる。また車両・機械等の安全使用・保守に努める。	A		A		
	農業クラブ活動を活発化する。	GAP、HACCPの認証取得に向けた農場の環境づくりに努める。関係の研修を年間1回以上実施する。	B	A		GAPIについて奈農研の夏期研修(1回)に参加できた。HACCPは生徒の教材としてとりあげた。	
		地域との連携を図り、地域社会に貢献する農業クラブ活動の推進・充実を図る。年間40回以上の直売所営業、年間4回以上の地域連携事業を実施する。	A	A	直売所を通しての継続的な地域交流、また地域の幼稚園・小学校を対象とした「野菜の教室」「ふれあい動物教室」にも取組んだ。		
	各種大会・競技会のエントリー数の50%以上で近畿大会以上のステージへ進む。また近畿大会の運営を成功させる。	A	A	全国大会では農業鑑定競技(農業)、平板測量競技で優秀賞を獲得した。			
家庭科教育	基礎・基本としての知識と技術を習得させる。	専門科目の基礎的・基本的な知識や技術の内容を精選して授業内容を構成する。	A	B	専門の基礎的・基本的な知識や技術の内容を検討し精選しながら授業を構成した。	基礎的な知識や技能についての内容は今後も精選し行う。また授業時間の確保や生徒の実態に即した授業の展開を心がけ、生徒の意欲向上につながる授業の充実を重ねる必要がある。	・家庭系の各科ではその特色を生かし、生徒の興味関心を引き出す教育を実践されています。生徒が生き生きと学校生活している様子うかがえます。今年度はミートデリカコンテスト2019で最優秀賞を獲得され全国大会に出場されたと聞いています。磯城野高校の取組をPRできました。 ・交通安全マスコット配布や感謝の訪問、通学路清掃等、生徒会や農業クラブと連携した家庭クラブ活動が行われています。 ・家庭科技術検定等を通して、専門の基礎的・基本的な知識や技術の更なる向上が期待されます。
		実験・実習等の学習内容の充実を図る。	A		実験・実習を通して、知識・技術の深化が図れるように内容の精選を行い、適切な指導を行った。		
		生徒個々の伸長を促す科目内容の構成について検討し、生徒の意識の変化や進路の多様化等に対応するため、弾力的な教育課程を編成する。	B		生徒の実態にそった指導の工夫や方法を検討しながら、各科目の内容の充実を図った。		
	生活産業の社会的な意義や役割を理解させる。	生活産業を取り巻く諸課題を解決し、生活の質の向上と社会の発展に貢献するための教育内容の充実を図る。	B	B	生活の質の向上を目指し、社会の一員として役割を果たせるよう、学習内容の充実を図った。	社会の変化に応じた課題を見つけ、解決していくための基礎力を充実させる必要がある。	
	創造的な能力と実践的な態度の育成に努める。	資格取得や作品発表会、企業との商品開発などを通して目標の達成を目指し、個々の学習成果の向上に努める。	A	A	企業と連携で商品開発を行った。また、各種検定の上の級の合格を目指して取り組みを進めた。	各専門学科ではそれぞれの目標に向けて努力を重ねる試行錯誤している。多方面との連携や協力を継続して行っていることで、成果が多い。今後も各科の特性に応じた活動を継続する。	
学習とボランティア活動等を関連付け、その実践を通してコミュニケーション能力の育成に努める。また、家庭クラブ活動等を通して地域との連携を強化し、活動の充実を図る。	A	学習と関連付けたボランティア活動等を通して、コミュニケーション能力の育成を図った。また、家庭クラブ活動では地域との連携を継続した行った。					
文化図書活動	文化祭や部活動を通して生徒の活動する場をつくり、それぞれの能力の伸長を図る。	生徒が中心となって文化祭を成功させるよう十分なサポートと助言を行う。	B	B	舞台発表・模擬店では生徒たちが主体的に準備し運営していた。文化鑑賞会では映画鑑賞を実施したが、生徒たちが出会えて良かったと思えるものを鑑賞させることができた。	楽しいながらも安全で安心できる文化祭を開催するため、生徒たちに向けての啓蒙活動に尽力する。綿密な調査をし、きちんとした計画を立てて実施するように努める。特に、職員の仕事について配慮ある分担を考えるようにする。	・文化系の部活動もたいへん活躍されていることがうかがえます。優秀な成績を修めたいと聞きました。さらに頑張っていたください。 ・「図書館だより」「若さの集録」「学校新聞」の発行、カルタ大会などの事業のほか、生徒の図書館利用の充実を図ろうとされています。引き続きお願いします。 ・朝の一斉読書が図書館を利用することの良いモチベーションになっていると伺いました。今後是非、継続され少しでも子どもの読書離れをなくしていただきたい。 ・学校ホームページでは、生徒たちの活躍など学校の様子がわかりやすくなりました。ただし、更新の回数を増やしていただきたい。
		年度当初に実施されるクラブ紹介行事等を通じて、生徒の文化系クラブへの入部を促進し、部活動の活性化を図る。また文化祭での展示等に生徒が積極的に参加できる環境を整える。	A		昨年度に引き続き美術部がアートグランプリにおいて様々な賞を受賞した。吹奏楽部は県のコンクールで銀賞を受賞した。バトントワリング部は関西バトントワリングコンテストに出場し、ソロトワリング中級において2人が金賞を獲った。演劇部は県大会において優良賞を受賞した。		
	様々な物事に興味関心を持つ心を育てるために図書館利用を積極的に推進する。	読書感想文や図書館だより(毎月1回発行)など図書館と本に関わるものの充実を図る。	A	A	ほぼ全員が読書感想文を提出した。また、図書館だよりを毎月発行することができた。	読書のきっかけ作りとなるような一斉読書を来年度も企画し、この取り組みを継続する。また、カルタ大会については、更なる充実を目指す。	
	朝の一斉読書(年2回)・新春カルタ大会・田原本ふるさとかるた大会などの行事を開催し、生徒がより一層積極的に参加できるようにする。	B	朝の一斉読書では、読む本を持参させることに課題が残った。新春カルタ大会では本戦を3人の生徒が欠席した。このことについての対策を講じる必要がある。1年生で実施する田原本ふるさとかるた大会は、今年も大変に盛り上がった。				
	広報活動を通じて生徒や保護者、地域に関わり、広く学校の理解に努める。	学校新聞を各学期に一回発行し、生徒活動について広報する。また、年度末には一年間の生徒活動の記録誌として「若さの集録」を発行する。	A	B	学校新聞・若さの集録を予定通り発行できた。	若さの集録の編集過程において、チェック機能の更なる充実を図ることで、できる限りミスのない仕上がりを目指す。	
HPの更新頻度が高まるよう、HP更新デーを年3回実施する。		B	情報係の強力なサポートにより、HP更新デーを2回実施することができた。				

令和元年度 学校評価総括表

奈良県立磯城野高等学校④

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析) 及び改善方策	
保健体育 活動	各行事を通して運動の楽しさを理解させ、積極的に取り組む姿勢・協調性を養う。	全体が楽しく安全に協力して取り組むことができるように、球技大会・体育大会等の内容を昨年度の反省をもとに内種目の変更やルールの改善等内容を工夫する。	A	A	球技大会・体育大会とも教職員、生徒が協力し計画通り進行できた。球技大会では、種目種目の検討を進めたり、ルール等を考え安全に楽しくできた。	球技大会、体育大会はクラスによる男女比のばらつきやエントリー数の差が大きく、実施方法等について検討する余地がある。球技大会は、開催日程等について検討する。	・学校保健委員会、学校衛生委員会、また体育大会等で保健体育に係る諸活動が推進されています。	
	運動部の活性化を図り、礼儀正しく、明るく、わくわくする学校を目指す。	運動部員集会を学期に1回以上開く。怪我や事故の防止、応急処置など緊急時の対応について理解させる。また、校外清掃活動に積極的に参加し地域に貢献する。各部活間の親睦・結束を高めるため交流会等を行う。	A	A	運動部員集会を実施し、1学期末にはコンディショニングの大切さについて外部講師を招き、研修を深めた。今年度も、年始めにクラブ員全員で炊き出しを行い、クラブ間の交流を深めることができた。	より安全な活動をおこなうために、緊急時の対応について、顧問で確認する時間が必要である。各部活動のホームページの更新を定期的実施する。	・保健だよりの発行や学期毎に発行されている食育ニュースなど、より充実した取組が行われています。	
	自己や集団の健康管理に関心を深め、実践できる態度・知識を養う。	保健だよりの発行を学期に1回以上発行し、各季節に応じた健康管理、食育推進を促すとともに、保健・体育委員会活動の活性化を図る。	A	B	A	今年度も、保健だよりの3回(保健委員にも記事を書かせた)と食育新聞3回を発行し、生徒に食や健康に関する興味関心を持たせることができた。	保健だよりの発行(掲示及び配布)を定期的に行い、健康的な生活習慣・食事等の内容を伝えているが、生徒へのアンケートの結果、どれだけ効果があるのか、疑問が残った。掲示の仕方、ホームルームでの展開方法等について、再度検討が必要である。	・部活動の加入率が低いと聞いています。活力ある学校にするためにも部活動への参加を促し、部活動を適正に実施するとともに健やかな生徒の育成に努力してください。
		健康診断の結果はその必要性を理解させ、スポーツテストの結果は、個人の健康・体力管理ができるよう、保健の授業の中で展開し、返却する。	B		今年度も職員間で連携し、健康診断の情報提供を担任等に迅速に行うようにした。スポーツテストの結果は保健や体育の授業で返却し、説明を添え自己の体力に関心をもたせた。	・精神的要因による保健室来室が年々増加していると聞いています。このような生徒に対する研修の機会を増やしてください。		
	学校保健委員会・食育推進委員会を年に1回以上開く。1年生の保健の授業で食に関するアンケートも実施し食育新聞等にも生かす。	B	B	3月に実施予定だった学校保健委員会は、臨時休校のため中止した。資料を配付し、さまざまな方々から意見を求める形をとった。				
環境整備 活動	美しく明るい学習環境を維持する。	生徒の清掃活動が円滑に行えるよう、定期的な清掃用具の点検等を実施する。	B	B	定期的な点検は実施できず、担当者の申告への対応となった。職員も生徒も清掃用具を大事に使っているせいか、申告は少なかった。	清掃活動がより機能的に行われるよう、年間の清掃分担について常に見直し、改善を図る。清掃用具の更新等が年々難しくなってきたので、メンテナンスの啓発を継続する。	・校門からは美しく剪定された木々が植栽されており静かで落ち着いた学習環境が整えられている様子がうかがえます。	
		生徒全員の環境美化の意識を高めるため、学期初め、行事の前後に大掃除を実施する。	B		実施時期を精選して大掃除を実施することができた。清掃担当箇所と人数・清掃用具のアンバランスが生じている場合もあった。			
	通学路・学校周辺の環境美化を推進する。	生徒会が主催する美化活動に環境整備委員会として参加し、定期的な地域清掃活動を実施する。	A	B	B	生徒会の清掃活動、クリーンアップならキャンペーンに、学年別で参加することができた。	クリーンアップならキャンペーン等の地域とタイアップした活動を継続しつつ、学校独自の定期的な美化活動も地道に継続したい。また、計画性を高め、過不足のない美化活動の回数と十分な準備に留意したい。	・「学校安全対応マニュアル」を作成し、危機管理に対する教職員の共通理解が図られています。
		環境整備委員を中心に学校行事開催時における、周辺環境の整備・片付けを徹底する。	B		文化祭ではゴミご設置とゴミ回収を、ほぼソフトどおりに行うことができた。			
防火・防災の意識を高める。	年に1回以上、防火・防災訓練を実施する。また、地震対応等の内容を加味する。	A	B	A	防火・防災訓練を2月に1回、実施することができた。地震時の安全行動など明快な内容で展開できた。	地震発生時の安全行動について、継続的に訓練を行い、生徒に定着させていく必要がある。今後も、体験的な訓練内容や視聴覚教材を導入し、効果的な防火・防災訓練を実施したい。	・不審者の侵入防止対策については、校舎の構造や敷地の里道の存在から難しいと感じられますが、危機管理上、地域の自治会長などの関係者と継続した取組が必要で。	
	身のまわりの整理整頓、緊急時の避難経路について、日ごろから啓発する。	B		校内は全般的に生活環境がよく整理されている。避難経路の確認は、訓練時等に限定されている傾向がある。				
地域連携 活動	家庭・地域社会・他校種・関係諸機関との連携に向けて、具体的な取組を行う。	学校ホームページに地域参加可能な行事や直売所(しきの彩)の即売状況等を掲載し、地域参加型の事業充実を図る。	A	A	A	学校公開行事・直売所(しきの彩)について、ホームページを活用することができた。直売所については常連客を含め着実に来客数を伸ばしている。	直売所「しきの彩」は、生徒のアイデアを出し合い「校内生徒感謝デー」を設けたり、手作りのピザを配布することで、来場者・売り上げとも昨年を上回ることができた。常連客も増加している。今後もホームページに即売状況を掲載したり、創意工夫に継続して努める。育友会会報誌は写真やイラストを多く使用し、見やすい紙面づくりを心がけた。学校ホームページの更新回数を増やす努力をしていきたい。配布物については必ず保護者に届くよう担任による確認を徹底する。今後も工夫と改善を行う。	・火曜日実施される直売所は地域住民の人气が高く、開店前に長い行列ができています。ホームページでも商品情報、販売状況などわかりやすくなりました。また、この取組を生徒の学習活動に連携させることができています。
		学校新聞を学期毎に育友会広報誌を半年毎に発行し、学校の様子を保護者に伝える。	B		A	学校新聞、育友会会報誌等を予定通り発行できた。学校ホームページでも子どもたちの様子を発信できた。		
		育友会員の研修会・総会・授業参観の参加数5%増と、その内容の充実を図る。また、育友会報誌を年2回発行する。	A		A	育友会行事は計画通り実施することができた。保護者の参加は目標の5%増を達成できた。		
		学校からの案内文書や新聞、広報誌などを確実に保護者に届ける。	A		A	学級担任から根気強く、指導していただいたため、保護者に届かない文書等は減少している。		
	地域社会の人的・物的な資源を積極的に教育活動の中で活用する。	社会人講師やコミュニティーチャー、大学講師などスペシャリストによる授業を実施する。	A	A	A	多くの社会人講師や大学講師を招き、幅広い内容で授業を実施することができた。	インターンシップ・社会人講師による授業を通して、専門分野への進路について考える機会をさらに多く設定する。	・学校ホームページも工夫され充実してきました。生徒たちの学習の様子、学校生活の様子がよくわかります。
学校の教育資源を地域社会に提供する。	体育施設、農場広場等の施設を開放し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	A	A	A	学校開放として運動場や農場広場等の利用者が増加した。	学校開放のみならず、様々な方法で教育資源の提供に努める。		